



St.Mary's

セント・マリーズ

第13号

2013年4月

ご自由に
お持ちください

小児外科スタッフ



目 次

INDEX

2 インタビュー ひと
国際事業部長
浦部 大策

3 診療科訪問
小児外科
靭 知光 診療部長

4・5 乳児死亡が大幅減
ラオスで母子保健活動

6 医療トピックス

7 病気と向き合う
慢性腎臓病

8 健康エクササイズ
春のハイキング&トレッキング

健康献立

じゃがいものそぼろ煮

連携登録医のご紹介

10・11 外来診療体制

今回のひと

国際事業部長 浦部 大策

山口大医学部卒、久留米大医局を経て1989年より当院新生児科勤務。同科診療部長などを務める一方で、長年国際事業部長として当院の海外における支援活動に従事してきた。

当院は長年にわたり国際協力で実績。 専門家派遣も500人を超えていいます。

—— 当院の国際協力活動の歴史は？

1982年にエジプトのカイロ大学から看護師の研修生を受け入れたのが始まりですね。以来30年に及ぶ国際協力の歴史があります。主にアジア・アフリカ・中南米などの途上国を対象としています。

—— 近年取り組んでいることは？

ラオスでの母子対象の栄養改善プロジェクトがあります。ラオスの農村では食生活の偏りが原因で乳幼児の死亡率が異常に高い。そこでアイサップ(ISAPH=聖マリア病院グループのNPO法人)とともに、妊産婦と乳幼児の栄養改善と保健に取り組んでいます。海外支援の長い実績を背景に2005年から始めたプロジェクトです。国際協力機構(JICA)の事業にもなっています。

—— ほかにはどんな国がありますか？

ウズベキスタンではJICA事業として、非感染性疾患プロジェクトを行っています。かつて途上国ではマラリアや結核などの感染症が大きな問題でしたが、かなりコントロールされてきました。現在では非感染性と呼ばれる疾患、たとえば糖尿病、心臓病、高血圧といったものが課題です。生活習慣に根差した疾患ですね。そしてスリランカにおける病院管理に関する支援事業。これは病院経営、医療機器管理など全般的な病院管理に関するものです。

また韓国のカトリック医療協会とは25年にわたる交流の歴史があります。私自身は直接関わってはいませんが、医師による連携の強化など毎年交流の幅を広げています。

—— アジア以外の国は？

アフリカ・マラウイでの栄養障害の子供を対象にした事業。この国ではかつて、当院職員から集めた寄付金によって地域保健の拠点となる建物を建てたことがあります。結核やエイズが多い国ですが、食糧生産や食生活の面から、栄養のバランス障害が起こりやすい状況にあります。食生活に関する知識の問題もあるし、1年を通して一定の



食糧が安定して生産できるような方策はないのかなども考える必要がありますね。

—— これまでの職員派遣数や研修受け入れの実績は？

この30年間で主にアジア、アフリカ、中南米を対象に保健の専門家など延べ500人以上を派遣し、研修受け入れも医療技術や病院管理など多様な分野で延べ1,200人を超えていきます。

—— 長年の支援活動の意義やあり方を どう感じていますか？

久留米大学時代を含めて1986年から関わってきましたが、私自身は支援活動というより異文化交流の意味が強いように感じています。国による価値観の違いを理解することの大切さ—といったものです。日本にいたらわからないことを理解しようとする面白さ、そこに大きな意義があると感じています。

そして支援活動は、目の前にいる患者さんを診る診療活動と同時に、地域全体の改善を図る保健活動が欠かせないということ。災害地支援においても個々の診療活動に加えて、感染症対策などの保健活動が絶対に欠かせません。

—— 外国語は何国語話せますか？

会話のレベルにもありますが、中国語、インドネシアのマライ語、インド・パキスタンのウルドゥー語。それに英語といったところですか。中国、マライ、ウルドゥーの三つの言語を話せれば、アジアの人たちとはかなり通じ合うことができます。今、韓国語を勉強中です。

—— 今後の取り組みは？

我々の活動はおもに支援組織から資金をいただいてのものですから、交流を深め合うこと自体大変意義深いのですが、やはり成果を挙げることが必要です。ラオスでは私たちの活動によって乳幼児の死亡が確実に減っています。これは大きな成果だと思っています。

● 診療科訪問 ●

introduction

小児外科

小児科・新生児科や他の診療科と密な連携のもと、
小児の先天性疾患や急性腹症、外傷に迅速に対応

当院小児外科は幼小児期に発症する先天的な外科的病気や虫垂炎(盲腸)、
事故などによる胸やお腹の臓器損傷に対して迅速かつ的確な診断治療を行っています。
また、院内における患者さんの栄養問題をチームで解決する
NST(Nutritional Support Team)活動の牽引役でもあります。

① 先天性疾患 ② 急性腹症 ③ 外傷 ④ NST(栄養サポートチーム)

当科は新生児や幼小児期～学童期(15歳まで)の子供さんたちの外科手術を行う診療科です。最も多い疾患は小児のそけいヘルニア(いわゆる脱腸です)や停留精巣(睾丸が下りていない)をはじめとする様々な先天性の疾患です。特にそけいヘルニアの症例数は西日本でもトップクラスで(年間250例前後)、手術法も最新の治療法(腹腔鏡下手術など)を取り入れ、お子さん達の身体の負担を減らしています。また、小児では重症になりやすい急性虫垂炎(盲腸)も症例数が多く、重症度別に治療法を考慮し、お子さんに最適な治療法を選択しています。当院は小児の救急患児数が年間3万を超える救急病院ですので、交通事故などの胸腹部外傷のお子さん達もたくさん搬入されます。以前はお腹を開けて手術していた症例も現在では、放射線科の先生方の協力により、血管カテーテルで出血を止めて手術しないで治療しています。さらに、当科は院内全体の栄養管理を向上させるべくNST(栄養サポートチーム)の中心的役割も担っています。

① 先天性疾患

生まれて間もない新生児から小児期における多種多様な先天性疾患の外科的治療を行っています。特に最近では腹腔鏡による手術の数も増加しており、そけいヘルニア、急性虫垂炎、ヒルシュスブルング病等が行われています。特にそけいヘルニアは外来で図や写真等を使って、分かりやすい丁寧な説明を心がけています。(写真1)



写真1: 手術風景(腹腔鏡下手術)

② 急性腹症

急性腹症と呼ばれる子供の腹痛の代表として急性虫垂炎(盲腸)があります。当科では小児科の先生方と一緒に協力して、的確な診断と治療方針の決定および、迅速な治療を心がけています。最近では抗菌薬の進歩により、すぐに手術するとは限りません。そのお子さんの状態に合った治療法を選択し、丁寧に説明しています。もちろん虫垂炎以外の腹痛疾患の手術もたくさん手がけています。

③ 外傷

不慮の事故による小児の死亡は我が国では死因の第1位を占めています。多様な事故により外傷を受けた子供達を救命するのも我々の使命です。特にお腹の中の臓器損傷(肝臓・腎臓・脾臓・脾臓や腸管)はその部位の見極めと迅速な治療方針の決定が求められます。当科は頭部や四肢以外の外傷患児の治療と全身管理を行います。



写真2: 外来風景

④ NST

病気の治療も大切ですが、その前に患者さんの体力や栄養状態が十分でなければ、治療もスムーズに進みません。当科には日本静脈経腸栄養学会の認定指導医が2人いて、院内全体における栄養問題を持つ患者さんのサポートにあたるNSTの中心的役割を担っています。(写真2)

小児外科診療部長 霽 知光

当科では「当たり前の事が当たり前にできる」ということを、若いスタッフに教育しています。意外と難しいこの事を常に意識しながら、「子供達を病気やケガからいかに守るか」を日夜真剣に考えて、診療に取り組んでいます。



ラオスで母子保健活動8年

農村地区を巡回し、母子健診や栄養教室開く

大きな成果 乳児死亡が大幅に減少

当院では2005年より、聖マリア病院グループの国際援助団体アイサップとともに、ラオスの母子栄養改善プロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトについて浦部大策・国際事業部長に聞きました。

—— 栄養改善プロジェクトの具体的な内容は？

ラオスの農村では、以前から乳児の死亡率が異常に高いものがありました。原因はビタミンB1欠乏症、いわゆる乳児脚気(かっけ)ですね。背景には母親が乳児に母乳を与えない食物タブーがあります。また貧困のために十分な食生活が送れないという根本的な問題もあります。そこで私たちは、カムワン県の農村を巡回して健康診断を実施し、母乳の大切さを理解してもらう母親教室を開いたり、粉ミルクやビタミンB1補助食品を提供するなどの支援活動を行ってきました。2009年からはJICAの委託事業として取り組んでいます。



栄養問題の大切さを訴える母親教室

—— 現地事務所も設けていますね？

アイサップの運営で、首都ビエンチャンから車で約5時間南に行ったタケク市にあります。スタッフはアイサップ派遣の日本人2人、現地のラオス人3～4人。ここを拠点に農村を回っています。活動内容からいってもやはり現地事務所を置かないと対応できません。私も年に少なくとも1回はラオスに赴いています。

—— 活動の成果はいかがですか？

少人数で取り組んでいる活動としては大きな成果を挙げていると思います。ビタミンB1不足の件、これは迷信による典型的な例ですが、私たちの保健活動により少しづつ改善されてきました。現にシーブンファンという地区では、1歳未満児の死亡が例年の15人前後から大幅に減ったという調査結果を得ています。

—— 活動に際して何か困難な点は？

雨期に入ると大洪水が発生し道路が遮断されることがしばしばです。農村の家屋が高床式なの

は雨期対策ですが、季節や天候によって活動に大きな制約を受けることがあります。

—— 感染症の問題はいかがですか？

原因となる衛生面でやはり大きな問題がありました。農村ではブタなどの家畜と共に存状態で、トイレのない家が今も一般的です。井戸がない集落も多く、あっても土砂や家畜のし尿が流れ込むような非衛生的な状態でした。そこで、JICAからの資金で、14地区で井戸を掘り、衛生管理もしっかりとできるものを造りました。

—— 井戸の他に現地に供与したものは？

セバンファイ郡保健局の敷地内にアイサップが建てた野田教授記念研修センターという施設があります。アイサップの理事であった故野田進士先生のご遺族からのご寄付により建てられたもので、2010年4月に完成しました。同センターは宿泊施設も備えており、保健ボランティアや郡保健局関係者の研修の他、村での活動時の宿泊などにも利用されています。



(右)野田教授記念研修センターの外観
(下)同センターで2011年4月に行われたセバンファイ郡病院の看護部ミーティング



母子を対象にした農村での健康診断

—— 今後の課題は？

農村の妊婦の8割が寄生虫に感染している実態があります。これは教育では治らない問題です。今後取り組もうと考えています。

ラオスってどんな国?

仏教寺院や世界遺産の古都も温厚で親日的な人々

インドシナ半島中央部に位置するラオスは、ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマー・中国の5ヶ国と国境を接する内陸国です。人口は656万人、50を超える民族が、悠久と流れるメコン川の恵みや山の恵みなど自然の恩恵を受け、自然と共に生活を送っています。宗教は上座部仏教が60%、アニズムやその他の宗教が40%で、人と争うことを好まず、とても温厚な民族です。そのせいか、すべての分野で外国からの援助に頼らざるを得ない国家財政で、日本は1991年以降継続してラオスに対する最大援助国として空港・幹線道路・病院・学校の整備や人材育成など積極的に援助を行っています。また、1965年に日本が初めて青年海外協力隊を派遣した国でもあります。



首都ビエンチャンの凱旋門

このような背景もあり、ラオスはきわめて親日的な国で、日本人にはとても懐かしく、ゆったりとした時間の流れを感じさせてくれ、一度行くとまた訪れたくなる国です。日本人の短期滞在者はビザが必要ないこともあります。最近では多くの日本人が世界遺産の古都ルアンパバーンや仏教寺院の観光に訪れてています。



ラオス支援活動研修に参加した当院職員

TOPICS

聖マリア医学会を開催、活発に実践報告 「ドクターへリ」テーマにシンポジウムも

毎年恒例の聖マリア医学会が2月2日、久留米医師会館で開かれ、当院ほか聖マリア学院大学などグループ法人職員たちが研修成果を発表しました。今回は「看護実践」「医師部門症例報告」など五つのテーマで医師、看護師など約50人が発表し、活発に質疑応答が交わされました。各診療部門を統括する副院長5人による運営報告もありました。午後からは特別講演として東邦大学看護学部長の高木廣文先生が「質的研究は科学的研究か?」と題して講演されました。

1月にオープンした当院の新病棟屋上には、ドクターへリや消防防災ヘリなどが着陸できる緊急時・災害時用のヘリポートが設けられています。これに関連し、今医学会では「ドクターへリ搬送」をテーマにシンポジウムが開かれました。ドクターへリは救急搬送での活躍が期待され、九州でも平成24年度までに佐賀県を除く各県に導入されています。福岡県では久留米大学病院を基地病院として10年前から運用され、年間約400件の出動依頼があるとのことです。シンポジウムには日本航空医療学会理事長の小濱啓次氏ら4氏が参加し、離島や山間へき地からの救急搬送や東日本大震災での人命救助など幅広い活動例が報告されました。機動性に優れ、久留米大のドクターへリはこれまで2回高速道路上への着陸を実施したとの報告もありました。

当院ヘリポートでのドクターへリ受け入れは、1月28日の久留米大ドクターへリによる患者さん搬入が第1号でした。



久留米医師会館で開かれた、
毎年恒例の聖マリア医学会



当院ほか聖マリア学院大学など
グループ法人職員が成果を発表



ドクターへリの活動の拠点として期待される当院の屋上ヘリポート



—慢性腎臓病(CKD:シーケーディー)— 新たな国民病

「あなた蛋白尿が出ていませんか？血液検査でクレアチニンが高いって言われていませんか？」……もしかしたらCKDかもしれません（表1）。

CKDはChronic Kidney Diseaseの頭の文字を取ったものです。CKDという病気には二つの重大な終末像があります。一つは心筋梗塞や脳梗塞などの血管病の発症、もう一つは腎不全の悪化による透析の開始です。そしてそれはいつも死と隣り合わせです（グラフ1）。このことはとてもつらいことですし、社会にとっても医療費の大きな損失となります。

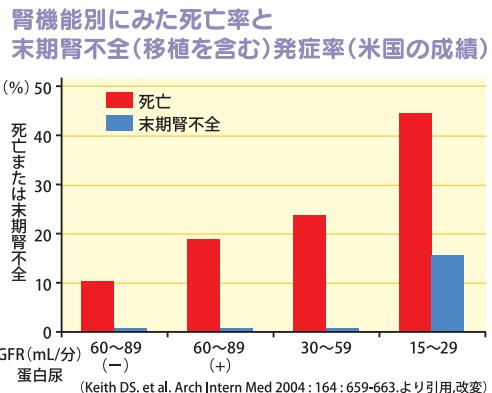


腎センター長、
腎臓内科診療部長
東 治道

表1

CKDとは？	下記のいずれか、または両方が3カ月以上続いている状態。
●腎障害	たんぱく尿（微量アルブミン尿を含む）などの尿異常、画像診断や血液検査、病理所見で腎障害が明らかである状態
●腎機能の低下	血清クレアチニン値をもとに推算した糸球体濾過量（eGFR）が60ml/分・1.73m ² 未満の状態 (日本腎臓学会編「CKD診療ガイド」, 2007年)

グラフ1

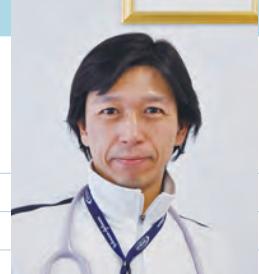


新たな国民病CKD CKDの原因はいわゆる慢性腎炎に加え、糖尿病や高血圧など併せて一般的な病気からもおこります。日本腎臓学会の基準を元に、血液検査のクレアチニン（Cr）と年齢、性別から計算した腎機能であるeGFR（イージーエフアール）で分類すると約1330万人といわれ、日本人成人の8人に1人がCKDということになります。

CKDは治療できる可能性があります 治療や生活習慣の改善で進行を止めたり遅らせたりすることができます。特に、早期であれば効果が大きいと考えられます。表1ではCKDの診断基準を少し分かりやすくしています。CKDかなと思ったら、一度お近くの先生などにご相談ください。もしCKDといわれたら、一度はCKDのことがよく分かる先生に診てもらい、検査や指導を受けて今後のことをよく聞いていただくことをお勧めします。

聖マリア病院はCKD病診連携を推進する病院です 聖マリア病院には腎臓内科専門医がいます。また、CKDに精通した看護師や栄養士が指導を行うことが可能です。そこで、近くの先生（かかりつけ医）のところで治療を受けながら、3ヶ月から6ヶ月に1回、病院で腎臓病の進行や合併症の検査を行い必要な指導を受ける病診連携をお願いしています。そうすればいつも診ていただける頼れるかかりつけ医に治療をしてもらしながら、専門医やスタッフの意見を聞くことができます。そうしていただくことで私たち腎臓内科医もできるだけ沢山の方への専門的な診療が可能になります。合言葉は「ストップ ザ CKD」です。

第12回 春のハイキング＆トレッキング



国際保健センター
米国スポーツ医学学会認定HFS
大渕 勝敏

このコーナーでは心と身体が元気になるエクササイズ情報を届けします。
今回は「春のハイキング＆トレッキング」です。

用意は万全。
さあ出発!



近年、手軽に楽しめるハイキングやトレッキングが中高年層や若い女性にも人気を集めています。

気候のいい春のトレッキングは心身のリフレッシュには最適。あなたも山へ出かけてみませんか？

山といつても高く険しい山ではなく、2時間程度で山頂に到達できる「低山」をお薦めします。

一般的に「トレッキング」とは低山・軽登山のことをいいます。

トレッキングの醍醐味は自然と触れ合えることです。自然の中で季節の草花を見ながら歩く非日常的な体験はとても気持ちいいものです。史跡巡りや名水を求めて歩くのも楽しいし、山頂からの景色はいつまでも心に残る思い出となるでしょう。

本格的な装備は必要ありませんが、長時間歩くことを踏まえてウェアとシューズはしっかり選びましょう。特にシューズは疲れにくく、かかととつま先が頑丈にデザインされたトレッキング専用のシューズがお薦めです。雨具、お弁当、水筒などをザックに詰め込んだら、いい天気になることを祈りつつ目的の山へレッツゴー！！

山を下りたら自分の体をしっかりと手入れしましょう。特に脚のストレッチやマッサージは入念に！ ゆっくりお風呂に浸かって心と体の充実感を味わえば、「次はどこの山に登ろうかな…」なんて思いをめぐらせているかもしれませんね。

山頂での
気分は格別。
自然と笑顔が



健康献立

じゃがいものそぼろ煮

●栄養指導管理室●

新じゃがのおいしい季節です。新じゃがは、しっかり洗って皮ごと調理し、栄養成分を余すところなく摂取することができます。今回はそんな栄養満点のじゃがいもの献立です。じゃがいもには糖質分解の酵素をサポートするビタミンB1、新陳代謝を高め肥満防止の役目も果たすビタミンB2、コラーゲンの生成を助けて老化防止に結びつけるビタミンCなどのビタミン類とカリウムが豊富に含まれています。



材料 <1人前>

牛肉ももミンチ	10 g
新じゃがいも	55 g
新玉ねぎ	20 g
にんじん	15 g
グリンピース	3 g
油	3 g
砂糖	0.8 g
醤油	4 g

作り方

- 野菜を一口大の大きさに切る。
- 鍋に油を入れ、牛ミンチを炒める。
- ②の鍋に、にんじんを入れ炒め、次に新じゃがいもと新玉ねぎを入れ、だし汁または水を入れ煮る。
- 軽く火が通ったら、グリンピースと調味料を入れ煮詰める。

ポイント

- 新じゃがや新玉ねぎは煮えやすいので、にんじんにある程度火が通ってから入れましょう。
- 牛肉は煮込むと固くなりがちですが、牛ミンチを使うことで、固くならずおいしく食べられます。

かかりつけの お医者さん

当院の連携登録医の先生をご紹介します。

医療法人清友会 植田病院

植田 清一郎 院長

診療科目 精神科、神経科、内科、循環器科、消化器科
放射線科、リハビリテーション科
平成20年4月から八女筑後医師会長



開業の経緯

昭和10年、祖父が結核療養所として開設したのが始まりです。父が同34年に精神科・神経科に転科、「筑後保養院」となりました。同61年に私が父から受け継ぎ、同63年に法人化しました。

主な専門分野とテーマ

理念は「和」、その一つに「保健、医療、福祉の連携」を掲げています。私たちの「出発点」である精神科・神経科については、脳と心をつなぐ病気であるてんかんと知的障害に取り組んでいる他、昭和50年代から地域や学校、企業と共にメンタルヘルス対策も行っています。

対応可能な検査

CT、X線、心電図、超音波エコー、内視鏡、脳波検査、心理テスト（知能・認知機能検査など）など。

診療の傾向

精神の病は年々、増えています。決して特別な病気ではありません。精神的健康の増進や予防、早期発見・治療、リハビリ、ケアと総合的に対応しています。自殺対策や水害被災者のみなさんにも気を配ってきました。また脳波診療を行ったり、臨床心理士、精神保健福祉士などと共にチーム医療に取り組んでいます。

趣味、大学時代のエピソード

久留米大学柔道部のOBでつくる「芳和会」の会長を務めています。現在5段です。父が柔道場をつくり、高校生を下宿させていたことも。柔道場は近々再開させたい、と思っています。趣味のゴルフは35年間、なんとかシングルを保っていますよ。



植田病院

☎0942-53-5161

住所：福岡県筑後市大字西牟田6359-3

駐車場：約30台 JR鹿児島本線西牟田駅から徒歩約15分

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~11:30	○	○	○	○	○	-
13:30~16:30	○	○	○	○	-	-

※日曜・祝日休診

聖マリア病院 外来診療体制

(2013年4月1日現在)

● 外来棟 3階 Aブロック | 内線:2001,2002

	月	火	水	木	金	土
消化器内科	午前	●	●	●		●
外科	午前	●	●	●	●	●
呼吸器内科	午前	●	●	●	●	●
呼吸器外科	午前			●		●
リウマチ 膠原病内科	午前 ☎		●			

※新患は事前に電話で問い合わせてください

● 外来棟 3階 Bブロック | 内線:2003

	月	火	水	木	金	土
整形外科	午前	●	●	●	●	●
小児整形外科	午後					☎ ●
脳神経外科	午前	●		●		●
脳血管内科	午前	●	●	●	●	●
神経内科	午前		●			
	午後					● (第1週)

● 外来棟 3階 Cブロック | 内線:2004

	月	火	水	木	金	土
形成外科	午前	● ※熱傷は形成外科	●	●	●	●
	午後					
皮膚科	午前	●	●	●	●	●
泌尿器科	午前	●	●	●	●	●
腎臓内科	午前		● (外来開始時間 9:30~)	●	●	●
	午後				● (CKD外来)	

● 外来棟 3階 Dブロック | 内線:2005

	月	火	水	木	金	土
産婦人科	午前	●	● (新患は産科)	● (新患は産科)	● (新患は婦人科)	●
	午後		● (新患は婦人科)		● (新患は婦人科)	
放射線科	午前	●				
血液内科 内線:2006	午前 ☎					
緩和ケア内科	午前 ☎	● ※新患は予約制、緊急時はこの限りではありません	●	●	●	
	午後 ☎					

● 外来棟 3階 Eブロック | 内線:2007

	月	火	水	木	金	土
精神神経科 心身症クリニック	午前 ☎	● ※新患は予約制	●	●	●	●

聖マリア病院 外来診療体制

(2013年4月1日現在)

● 外来棟 3階 Fブロック | 内線:2008

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	●
午後	●		●	●	●	●

● 外来棟 3階 Gブロック | 内線:2009

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	●
午後	●	●	●	●	●	●

● 外来棟 2階 Sブロック | 内線:2125,2126

	月	火	水	木	金	土
循環器内科	午前 ●	●	●	●	●	●
	午後		●			
小児循環器内科	午前 (外来開始時間 10:30~)	●			●	
	午後		●			
心臓血管外科	午前 (外来開始時間 10:30~)	●	● (再来のみ)	● (下肢静脈瘤・動脈瘤:木曜10:30~)		
糖尿病内分泌内科	午前 ●	●	●	●	●	●

● 小児棟 1階

	月	火	水	木	金	土
小児科	午前 ※小児科は15歳まで	●	●	●	●	●
新生児科	午後	●	●	●	●	●
小児外科	午前	●	●	●	●	●
小児歯科	午前	●	●		●	●
	午後 ☎	●	●		●	●
矯正歯科	午前 ☎	●	●	●	●	●
	午後 ☎	●	●	●	●	●

● 診療受付時間 | 午前8時30分～11時30分、午後診療は予約をお願いしております。(夜間救急・日祝日の受け付けは地域医療支援棟1階にて行います)

● 夜間・日曜祝日の当直体制 | 内科・外科・整形外科・産婦人科・形成外科・小児科・新生児科・脳神経センター・腎センター・循環器センター・画像診断部の各医師。なお、眼科・精神神経科についてはオンコール制(呼び出し)。

● 耳鼻いんこう科・皮膚科・歯科について | 夜間・日曜祝日の診療は行っておりません。

※諸々の事情により、上記の予定に変更が生じる場合もございますが、どうぞご了承ください。

ご自宅を訪問し看護サービスを行います

ご自宅で療養生活を送られている赤ちゃんから高齢者まで
すべての方を対象とし、かかりつけ医師の指示のもとに
看護師やリハビリスタッフがご自宅へ伺い看護サービスを行います。



健康状態の観察と助言

- 血圧・体温・呼吸・脈拍・特別な病状の観察や心の健康チェックと助言

日常生活の看護

- 清潔や食生活・排泄・寝たきり予防のケア
- 療養環境の整備
- コミュニケーションの援助

認知症の看護

- 認知症状に対する看護・介護相談援助

検査・治療促進のための看護

- 病気への看護と療養生活の相談援助
- 椎瘻(床ずれ)その他創部の処置
- 服薬指導・管理
- その他かかりつけ医師の指示による処置・検査

リハビリテーション

- 体位交換、関節などの運動や動かし方の指導
- 日常活動(食事・排泄・移動・入浴・歩行など)の訓練
- 福祉用具(ポータブルトイレ・車椅子・自助具など)の利用助言

終末期の看護

- 痛みのコントロール
- 看取り体制の相談・助言
- 本人・家族の精神的支援

介護者の相談

- 介護負担に関する相談援助、精神的支援

お問い合わせ先

聖マリア訪問看護ステーション(聖マリア病院 聖母病棟1階)

TEL 0942-39-8903 FAX 0942-35-3738

◆ 平成25年度の看護職員を募集しています ◆

募集職種:看護師・保健師・助産師(既卒者可) / お問い合わせは人事部まで ☎ 0120-768-314 ※詳しくはホームページを参照ください。

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡県久留米市津福本町422

TEL 0942(35)3322(代) FAX 0942(34)3115(代)

<http://www.st-mary-med.or.jp>

広報誌についてのお問い合わせは経営企画室広報担当まで

